

# する つくる がたる

千葉県立美術館報  
VOL. 17 NO. 2

(通巻65号)

平成3年2月5日発行

編集・発行人 竹内一雄

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

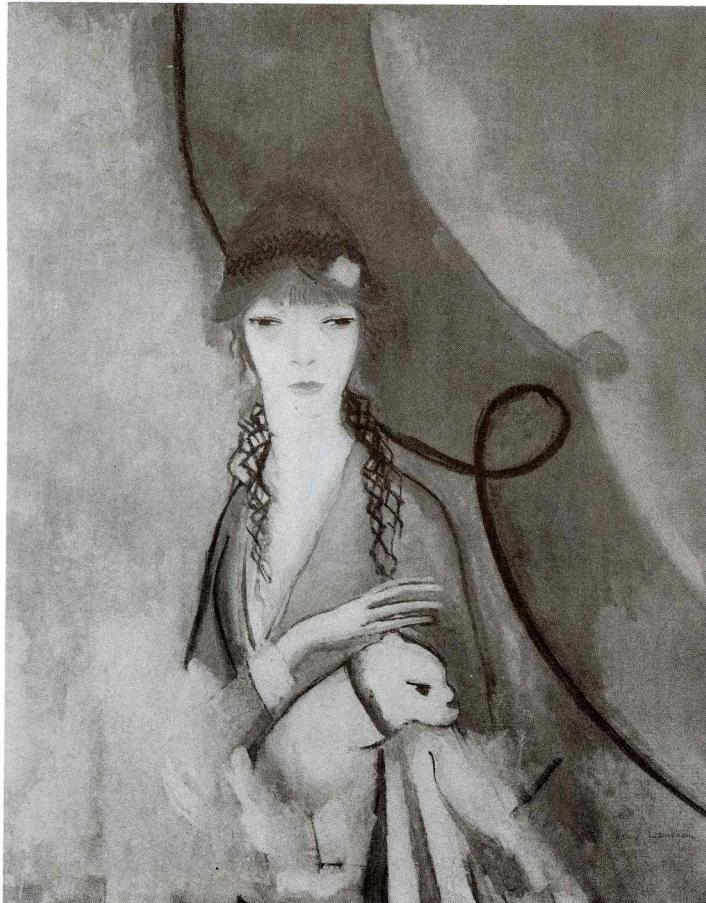
☎0472-42-8311 (代表)

## マリー・ローランサン

### 「犬を連れた夫人像」

油彩・キャンバス 一九一四年

(特別展「マリー・ローランサン」出品・群馬県立近代美術館蔵)



初期のローランサンの作品は、ブラックやピカソらの野獣派や立体派の影響を色濃く留めているが、やがて一九一〇年を境にその画風はひとつ変貌を遂げる。それは、様式や流行を越えて、本来の自分を、あるいは本当に自分の描きたいものを見極める時でもあった。

「犬を連れた夫人像」は一九一四年、三一才の時の作品である。この二年前に恋人だったアボリネールとの離別があり、前の年には母を失うなど、悲痛な出来事が続いた後の作品である。

淋しげで、虚ろな眼差しの女は、心の拠り所をなくして宙に漂っているかのようであり、仄暗い背景がその孤独感を一層際立たせている。この女には、物言わぬ子犬だけが、唯一の慰めでしかない。

画中の「夫人」は、恋人と別れ、母を亡くして天涯孤独の身になつたローランサン自身の投影であろうか。

この後、スペイン亡命時代を経て、パリ画壇に復帰するまでローランサンの画面からしばらく明るさが消える。

(田坂 浩)

## 特別展

# —夢と哀愁の女流画家— マリー・ローランサン

その生涯にわたり旺盛な制作を続けたローランサンの芸術家としての活動は、ピカソらのキュビズムの影響を受けながらも独自の画風を確立する初期、ドイツ人の男爵との結婚と第一次世界大戦勃発による亡命期、離婚後バリ画壇に復帰し最晩年に至る円熟期の三期に、大きく分けられます。

ローランサンの私生児として  
パリに生れました。母は娘に  
読書や音楽などの素養を与え  
身のまわりを手作りの縫い物  
や刺しゅうで飾りました。こ  
うした環境は彼女の女性らし  
い感性を養う基盤となりまし

絵が好きだったマリーは女子師範学校の受験を勧める母を説得し、一九〇四年（二十一歳）からアカデミー・アンベルへ通い、本格的に絵の勉強を始めます。この画学校で

ーランサンにとつて非常に  
吸収するものの多かった時期  
といえます。



## 「バルコニーの二人の少女」

「サークルにいるはギタリスト」  
と知り合い、彼の紹介  
でピカソやその仲間と  
の交際を始めます。  
「オービスムやギュ  
ーバレリーナと  
ビスマの画家たちから  
の制作上の影響や、生  
涯彼女の心にとどまる  
詩人ジョーム・アボリ  
ネールとの恋愛、独自  
の画風の確立など、ロ

一九一四年六月にドイツ人の男爵と結婚しますがその一ヶ月後に第一次世界大戦が勃発し、ドイツとフランスが開戦することになり、災害を避けるべく夫と共にスペインへ亡命します。亡命生活は一九年までつづきました。この時期は時代的にはもちろん、精神的にもパリを離れたことや夫との不仲などから創作が

るようになります。この画壇復帰の二〇年代は、画家として彼女がもつとも充実していいた時期といえるでしょう。またこの時期に家政婦として雇い入れたシユザンヌ・モローを恋人のように、娘のように愛し、生涯をともに過しました。

一九三〇年頃から彼女の画面からは徐々に緊張感が薄れ舞台美術や肖像画の依頼を受

その一方で版画や水彩画のみならず、本の挿絵やバレーの舞台装置や衣裳なども手掛け

★観覧料  
一般五〇〇円（三〇〇円）、  
高・大学生三〇〇円（二〇〇  
円）、小・中学生二〇〇円  
(七〇円)（）内は二〇名以  
上の団体料金

◆パリ画壇復帰以降晩年まで  
疎遠な状態が続いていた夫  
三四代に推移する一三二年

けて制作するほかは、想像や記憶によつて描くことが多くなりました。情緒性も一段と強くなつて、少女時代を懐かしむかのようになつて、少女を描く最も晩年に至るまで数多く描き続け、一九五六六年パリのアバ

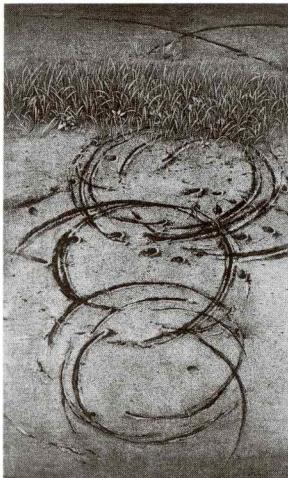
●美術講演会  
第五回  
日時 二月二三日(土)二時  
演題 「ローランサンの芸術——その魅力と秘密——」  
講師 濑木慎一氏  
(美術評論家)  
※会場は本館講堂で参加者は二〇〇名を対象としています。  
聽講料は無料。



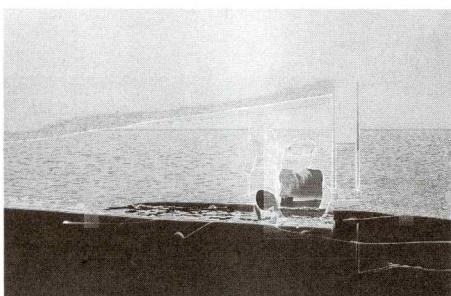
(大賞) 田中定一「私の地球」



(優秀賞) 櫻井晨正「Carrie」



(優秀賞) 片小田栄治「地(DIRTY COLLECTIONより)」



(優秀賞) 中野庸二「a ripple」

## 企画展

— リアリズムの追求 —

第2回 浅井忠記念賞展  
'91.1.6(日)～2.11(月)

第2回 浅井忠記念賞展は、

前号の館報でお知らせしまし  
たように、本県出身の日本近  
代洋画の先駆者、浅井忠の画  
業を顕彰すると共に、彼が目  
ざした「リアリズムの追求」

をテーマとして、具象的傾向  
の洋画作品を全国公募し、現  
代における美術の振興を図る  
ために開催するものです。

公募作品は平成2年11月16  
日～18日に搬入され、29都道  
府県から372点の応募がありま  
す。

平成2年11月29日、審査員  
の方々（乾由明、植村鷹千代、  
陰里鐵郎、嘉門安雄、桑原住  
雄、中村傳三郎、原田平作、  
本間正義、三木多聞）による  
作品審査が行われ、厳正なる  
選考の結果、大賞1点、優秀  
賞3点、入選96点が選定され  
ました。

審査講評によれば、大賞  
「私の地球」（田中定一）は、健  
康で開放的なイメージの作品  
であり、大賞にふさわしい風  
格を持ち、優秀賞「Carrie」  
(櫻井晨正)は、緊張感のある  
表現方法が現代的なものとし  
て評価され、「地(DIRTY CO  
LLECTIONより)」(片小田栄治)

は、克明な描写により、平明な  
午後2時20分より行われ、沼  
田武千葉県知事、山本鉄男千葉  
県議会議長をはじめ多数の来賓  
と主催者側から岩瀬良三千葉  
県教育委員会教育長、吉田猛  
千葉県教育庁生涯学習部長、  
竹内一雄千葉県立美術館長等  
が出席し、盛大に挙行されました。席上、受賞者には賞状  
及び副賞が、入選者には賞状  
が館長より授与されました。

引き続き、オープニングの後、  
展覧会の見学、最後にレセプ  
ションが行われ、新春に相応  
しい華やかな展覧会のスター  
となりました。

(大久保守)  
会場には入賞・入選作品計  
100点の外、浅井忠作品コーナ  
ーを設け、本館収蔵の作品や  
資料など約100点の展示によ  
て現代の具象絵画の傾向と同  
時に、浅井忠の世界を鑑賞す  
ることが出来、展覧会の趣旨  
に沿った充実した内容となっ  
ています。

また、1月19日午後2時か  
らは、今回の審査員でもある  
大阪大学教授の原田平作氏に  
よる「浅井忠と現代」と題し  
た美術講演会が実施されまし  
た。浅井忠の作品を中心につ  
ラيدを交えながら幅広い視  
点から話があり、本展覧会の  
一層の興味と理解を深める有  
益な機会となりました。

100点の外、浅井忠作品コーナ  
ーを設け、本館収蔵の作品や  
資料など約100点の展示によ  
て現代の具象絵画の傾向と同  
時に、浅井忠の世界を鑑賞す  
ることが出来、展覧会の趣旨  
に沿った充実した内容となっ  
ています。

また、1月19日午後2時か  
らは、今回の審査員でもある  
大阪大学教授の原田平作氏に  
よる「浅井忠と現代」と題し  
た美術講演会が実施されまし  
た。浅井忠の作品を中心につ  
ラيدを交えながら幅広い視  
点から話があり、本展覧会の  
一層の興味と理解を深める有  
益な機会となりました。

## 常設収蔵作品展

第5期

常設収蔵作品展第5期として、書のコーナーを設置いたします。本館では、昭和52年7月に企画展「房総の書芸展」を開催し、江戸から明治にかけての書家、学者、文人など28名の書跡を回顧いたしました。その後も、房総の美術家シリーズ、常設展を通じて紹介してきたところですが、このたび、現在の本県を代表する書家たちの作品を展覧いたします。

書は、いまでもなく筆の造形を主体とする造形芸術ですが、運筆の幅、速度・リズムなどにより、それぞれ独自の世界が形成されています。この機会に、書家たちが表現する世界を御鑑賞ください。なお、出品する作家及び作品は次のとおりです。

(50音順)  
浅見喜舟「太公有意垂釣」  
釣」(昭58)、江川碧潭「白雲青山詩」(不詳)、小安花邨「白雲青山詩」(不詳)、葉」(昭41)、鱸松塘「七言古詩」(不詳)、鈴



浅見喜舟「太公有意垂釣」

(昭50)、「金子聰松」「視思明」(昭48)、「小暮青風」「万葉集東歌」(昭41)、「高澤南総桃李争妍」(昭45)、「種谷樺舟」「故郷の山河」(不詳)、千代倉桜舟「宗左近の歌」(昭63)、「中村象闘」「古泉千樺の歌」(昭47)、「福田丞洲蘇東坡詩」(昭58)。16作家16点を展示します。

(会期)平成3年2月16日(土)から3月31日(日)まで

木方鶴「一笑千山青」(昭59)、高宮金陵「山部赤人歌」(不詳)、中台邱園「虚縫詩」(昭61)。  
(以上、物故者。)

## 千葉県移動美術館報告

第14回

展事業について賛同をいただきました。くことができました。いくつかの感想(アンケートから)を御紹介します。

○「近い場所で芸術を鑑賞できるのはとてもすばらしい事だと思います。一年に一度でもいいので楽しみを持てればと思います。」(女性・40才)

○「なかなか美術館に行けないのでもういう機会をもつと作ってほしい。よかったです。」(女性・30才)

○「都会より移住して久し振りに目を楽しませていただきました。」(男性・68才)

○「これを機会に千葉県立美術館に行つてみたくなりました。」(男性・26才)

このほか本展のPRの拡大をはじめ作家や作品に関する補助解説等の工夫についての要望もあり、今後の運営上の参考となる意見も寄せられました。これからも一層親しまれる移動美術館をめざして努力し、実施していきたいと思います。

このような巡回展により、できるだけ多くの県民の方々が優れた美術作品に接して美術に対する興味や関心を抱かれ、日々の生活の潤いとされることを念願しています。なお、巡回展の鑑賞を契機として、美術館における様々な事業についても理解いただき、身近な存在として活用していただければと思います。

本館の収蔵作品を中心とした県内巡回展の「千葉県移動美術館」が好評裡に終了しました。本年度は第14回展として、県立美術館、八日市場市教育委員会、栄町教育委員会との共催により、平成2年11月20日から12月2日まで八日市場市立公民館、次いで12月5日から18日まで栄町役場町民ギャラリーで実施しました。

開催日数は、それぞれ11日、14日でした。

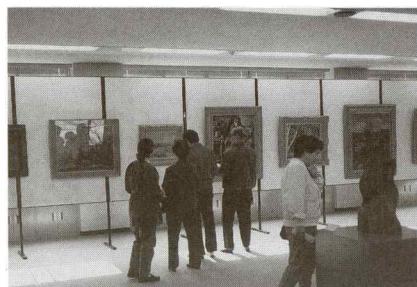
作品の内容及び点数は、館収蔵の日本画5点、洋画15点、版画8点、彫刻4点、工芸9点、書3点のほかに、本年第42回県展で県展賞及び文部大臣奨励賞の受賞作品6点を併せて計50点でした。

入場者数は、八日市場市では一一〇〇名、栄町では一三〇七名でした。いずれも児童から老齢の方々まで幅広い層にわたり鑑賞者が訪れ美術作品に親しまれました。

また会期中に来場者に本展の感想を伺つたところ、多くの方々から実際に優れた美術作品を鑑賞する機会を得た喜びとともに、このような巡回



八日市場市立公民館



栄町役場町民ギャラリー



5月より開始した美術館主

## 陶芸講座 1・2

●作家関係

日

誌

抄

催の実技講座は、1月11日の陶芸講座を最後に全て無事終了しました。以下、今年度の内容を簡単にまとめました。

日本画講座

## 情報資料室から

◆辞典類

会

見学会

特別展「石井林響をめぐる画家たち」

6・9

『房総人名辞典』『来日西洋人名辞典』『宋元明清書画名賢詳伝』『歐米文芸登場人物事典』『現代名工・職人人名辞典』『日本美術家事典』等。

14

関東地区博物館協会

理事会・総会・研究会

6・13

(→7・15)

◆『世界美術の旅』全12巻

『世界の美術館・博物館や建築、遺跡等を旅行記風に解説。』

12

第1回美術講演会

第2回美術講演会

(→10・14)

◆『大正ニュース事典』全8巻

『ギリシア・ローマ神話事典』等。

11

博物館実習(→11)

調査研究員会議

(→7・15)

6・16

◆『世界文学辞典』等。

『茶道美術鑑賞辞典』『和英対照日本美術用語辞典』等。

13

企画展「鈴木方鶴展」

第3回美術講演会

(→10・14)

6・16

◆『ロマン派』 ジャン・ク

『ロマン派』 レイ著 高階秀爾監訳

14

第14回千葉県移動美術館(八日市場市立

芸術館)

(→12・2)

6・13

◆『モダニスマスターーズシリーズ』全6巻

『モダニスマスターーズシリーズ』全6巻 ポロック、クーニング、ゴ

18

第14回千葉県移動美術館(八日市場市立

芸術館)

(→18)

6・13

◆『虹の上の舞踏』 澤野久雄著

『虹の上の舞踏』 澤野久雄著

19

第2回浅井忠記念賞

第2回浅井忠記念賞

(→2月11日)

6・13

◆『夜の手帖』(マリー・ローランサン詩文集)

『夜の手帖』(マリー・ローランサン詩文集)

18

第2回浅井忠記念賞

第2回浅井忠記念賞

(→12月30日)

6・13

◆『扇』 安藤元雄監修

『扇』 安藤元雄監修

12

第14回千葉県移動美

芸術館(八日市場市立

(→18)

6・13

◆『大島辰雄訳』 大島辰雄訳

『大島辰雄訳』 大島辰雄訳

12

第14回千葉県移動美

芸術館(八日市場市立

(→18)

6・13

◆『開室日』 火の日(祝日を除く)

『開室日』 火の日(祝日を除く)

12

第14回千葉県移動美

芸術館(八日市場市立

(→18)

6・13

◆『第4回美術講演会』

『第4回美術講演会』

19

第4回美術講演会

第4回美術講演会

(→2月11日)

6・13

◆『彫刻講座』

『彫刻講座』

19